

本には存せず、轉寫の際に抄寫者が加えた言葉も挿まっております、原本の用語と抄寫者の挿入の言葉との間に言語層の異なりもあつたらしい。各僧の用語間にも同様の觀點から詳察を加える必要もあるようであつて、言語研究資料としても、諸種の興味ある内容を含んでいる。

その文章の表記は、片假名を主として、これに漢字を交えた様式である。これは院政期になつて盛んに使われ出した様式であつて、表記史上からも重要な課題を持つてゐるものである。又、その用語には、前代の平安時代には見られなかつた、當代の新しい語詞や用法も含まれてゐる。實に、本文獻が國語史研究資料として注目せられてきた所以である。

本書の母體となつた『法華百座聞書抄總索引』は、このような視點から、中世語研究の基礎資料の一つとして取上げられたものであるが、本書は、單に國語學の研究資料としてだけでなく、説話研究資料として國文學上からも、ひいては文化史上からも重要な内容を含んでゐるものである。

本書には、先に述べたような事情から、單なる語釋は注記してゐないわけであるが、本書が、教場での資料として役立つならば幸である。

最後に、本文の公刊につき、御許可を賜り、御芳情を賜つた法隆寺當局・高田良信師の御芳志に感謝の念を表す次第である。

昭和五十年十二月十五日

編者識

目次

まえがき	三
翻字本文	三
凡例	七
補注	一〇七
凡例	一〇七
補注	一〇九

オ13メケレハ、タチマチニソノ財ヲナクシテ、爲^(陵)綾シフ⁶ニ法花經ノ文字六十

6 「チ」京大藏乾板寫眞には見
える。

14四字ヲカキサシテネタル夜ノユメニ、父ノ遠陵カラチタル地獄ノウヘニ、タチ

7 「ク」は重ね書。

15マチニ六十四ノ佛、雲ニノリテ來テ遠陵ヲムカフルニ、地獄タチマチニ變⁸シテ

8 「シテ」は底本「ソ」。

16ムトレトムマレタル人ミナ天ニムマレス。エムマニオ、キニオトロキアヤシミ
テ「遠陵ハ

9 「ムトレ」の「ト」は本のま
ま。
「ムトレトムマレタル人」
マ(開題)。↓補註。

17モロ⁹ノツミ人ナリ。ナニノユヘニ今六十四ノ佛、光ヲハナチテコレヲムカ
ヘ、又

10 「エムマ王とありたい」(田中
註)。「時炎魔王大驚」
(百因緣集卷六)。

18受苦衆生コト¹⁰ク天ニ生^(ヘキ)イフ^(ト)ニ、佛ノクモノナカニテコタヘタマフ「シラスヤ。

コノ

19遠陵カ子、爲陵トイフモノ、娑婆世界ニシテステニ六十四字法花經ヲ

11 「シテ」は底本「ソ」。

20カキハシメタリ。シカレハ、カレカ功德ニヨリ、父子ハラナシモノナレハ、今

12 「カ」は重ね書か。

天ニウマル、

21ナリ。又受苦衆生モ、今、佛ヲ見タテマツルニヨリテ、コト¹¹ク天ニハウマ

ル、ナリ。

オ22コノ六十四ノ佛ハスナハチカレカ書ルトコロノ法花經ノ文字コレナリ。汝イマニ

23オイテハ、佛法ヲ修行シ、大乘經ヲ書寫セヨ¹²トイヒテ、父ノヨロコフトミテ

オ

24トロキス。爲陵、信心ヲイタシテ、コノ法花經ヲカキテ、司馬ニコノヨシヲカ

タル。

25司馬、イヨ¹³ク隨喜シテ、國內ニ宣^(宣)ラクタシテ、佛法ヲナムアカメタテマツリケ

13 「シテ」は底本「ソ」。「ノ」
を書きさして、その上に重ね
書。

ル。人ニ

26ス、メラレテ法花經六十四字ヲカキシ¹⁴一ミノ文字、皆佛トナリテ、光ヲハナチ

タマ

27ヒケリ。今、内親王^(殿)天下、信心ヲコラシオハシマシテ、年來ノアヒタ御テツカラモ

28カキタテマツラセタマヒ、人¹⁴シテモカ、セサセタマヘル法花經ノ文字、シカシ

14 「シテ」は底本「ソ」。

ナカラ佛ニ